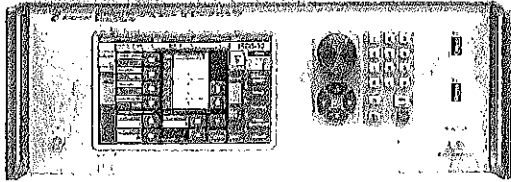


宮電 4K/8K向け信号発生器

高度広帯域衛星デジタル放送伝送方式 国際放送機器展に出品

宮電は高度広帯域衛星デジタル放送伝送方式の信号発生器「3256A」を発売した。4K/8K放送に対応したテレビやチューナなどの開発を中心に提案を進めている。

新製品はNHKの協力により製品化。ARIB標準規格「高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式ARIBSTD-B4 4.2.0版」に準拠。ストリーム発生部と変調部、RFコンバータ部を1台に収めている。



信号発生器「3256A」

深川 正人 取締役企画室長



深川 取締役

「8Kは放送の技術革新だ。日本最高水準の技術に携わってきたことは当社の誇り」と強調する。主な特徴は、出力周波数が950MHz～1650MHz、3220MHzのバリエーションアップが可能。衛星放送伝送路を想定したシミュレータ機能を

搭載。運用で想定されるAPSK変調方式における非線形特性の影響、降兩減衰を想定したC/N劣化などを確認する。受信評価の目的に合わせた信号発生ができる。伝送は、MPEG2と新しい方式のTLV(Type Length Value)が可能だ。深川取締役は「8Kは16年のリオ五輪で試験放送、18年にはBSなどで実験放送の予定。こうした放送のロードマップに対してタイムリーに製品を投入でき、顧客から注目を集めている。テレビなどの開発加速に期待したい」と述べる。

新製品は、11月19日から千葉市美浜区の幕張メッセで開催される「国際放送機器展(インタービ)」に出品する。